

平成 30 年度

「運営に関する計画」

大阪市立 古市 小学校

平成 30 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

思考を能動的に働かせて主体的に学習する力などの学力に着実な伸びが感じられるが、語彙力や読解力、表現力などが不十分で、テストなどで十分に力を表現することができない児童が多い。継続した多くの取り組みにより児童の規範意識は大きく向上しているが、自尊感情の向上は未だ十分ではない。授業や体育的な活動の工夫により児童の体力は徐々に向上している。児童・保護者の健康な食に対する意識は高いが、家庭での生活習慣に課題がある児童が少なくない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 32 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 32 年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を平成 28 年度より 5%向上させる。（施策 2 道徳心・社会性の育成）
- 平成 32 年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を 90%以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。（施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録で、全国平均を上回る児童を前年度より増やす。（施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 平成 32 年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 80%以上にする。（施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

学校園の年度目標

- 平成 30 年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童(生徒)の割合を 70%以上にする。（施策 2 道徳心・社会性の育成）
- 平成 30 年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を 80%以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より 0.5m 向上させる。（施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成）

学校園の年度目標

- 平成 30 年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童(生徒)の割合を前年度より向上させる。（施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 平成 30 年度の校内調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より 0.5m 向上させる。（施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 70%以上にする。（施策 2 道徳心・社会性の育成） ○ 平成 30 年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を 80%以上にする（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>校内調査や児童の観察等によって、いじめが認知された場合、学年・管理職・いじめ対策委員会との情報共有を行い、指導の方針や進め方等を確認し、迅速に対応する。指導の経過は記録に残し、解消されたと判断されるまで指導を続ける。</p> <p>また、いじめにつながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」「生活カード」などの取り組みを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を毎月行う（企画会時）。 ・学年会等で、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報共有する。 ・「いじめアンケート」「生活カード」を毎月行う。 | |
| <p>取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童・教職員ともに、学校生活の様々な場面でのきまりが意識できるよう、校内の掲示物を工夫し、児童に毎月の生活カードで学校生活を振りかえらせ、きまり意識を高める。</p> <p>特に、自発的にあいさつができるようにするための手立てとして、全校でのあいさつ週間の取り組みや、具体的な生活・学習場面を設定したあいさつの指導を行う。また、身の回りの物を大切にできるようにするための手立てとして、具体的に「くつやスリッパをそろえる」「ろうか・階段で歩いて右側を通る」「自分からあいさつをする」「自分のものやみんなで使うものを大切にすること」を中心に指導を進める。</p> | |

| | |
|---|--|
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護当番日誌や生活指導連絡会、各アンケートや生活カードでの自己評価などにより達成状況の確認を行う。 | |
| <p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>取組内容①をもとに、暴力行為を複数回行う児童を把握し、暴力行為に至る原因や経過などを丁寧に聞き取る。当該児童の思考・行動傾向を把握するとともに、教職員・保護者・スクールカウンセラーなどと連携を取りながら、行動の改善につなげる。</p> <p>また、「命を大切にする」「いじめをゆるさない」という強い心を育てるため、学年内で課題を明確にし、人権教育の学習を充実させる。道徳推進教諭を中心に、長期休業中の研修を計画・実施するとともに、学年内で教材検討や授業交流等を行うなどして、道徳教育の指導方法の向上を図る。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を毎月行う（企画会時）。 ・週1回の学年会や日々の活動等で、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を共有し、未然防止・早期対応を徹底する。 ・「いじめアンケート」「生活カード」を毎月行う。 ・学年内で授業交流等を行い、学習参観では全学級で年1回の授業公開を行い、保護者の道徳科に関する理解充実を図る。 ・年1回の全体研修の実施と校外研修への積極的な参加、学年内の教材検討や授業交流により、道徳教育の指導方法の更なる工夫を行う。 | |
| <p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>新たな不登校児童の割合を減らすため、欠席状況や児童の観察等から不登校傾向が認められた場合には、学年・管理職と情報を共有し、指導の方針や進め方等を確認して早期対応に努める。原因の特定・解消を進める中で保護者との連携を図りつつ、保護者への指導が必要な場合は管理職・教職員・関係機関とも連携を図る。また、不登校につながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、月1回の「いじめアンケート」をはじめ、聞き取り等、自称に応じた的確な取り組みを行う。</p> | |
| <p>指標</p> <p>月ごとに3日以上、累積1学期で10日、2学期で20日以上欠席した児童については、生活指導連絡会で情報を教職員で共有し、「児童理解・教育支援シート」を作成、活用して登校できるように継続的に指導を行う。</p> | |
| <p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>児童の自尊感情・他尊感情を高めるための手立てとして、自然体験学習、たてわり班活動、異学年交流や地域との交流を計画し実践する。「他者への奉仕（ボランティア活動）」「助け合い・学び合い」「いいところ見つけ」などの場面を各学年で設定して取り組む。</p> | |
| <p>指標</p> <p>生活指導連絡会の記録での指導者からの評価や、各アンケートや生活カードでの自己評価、児童同士の相互評価などにより達成状況の確認を行う。</p> | |
| <p>取組内容⑥【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童の防災意識を高め、日常生活に生かせるように、各学年で防災・減災について学習する取り組みを行う。</p> | |
| <p>指標</p> <p>各学年とも年1回以上、防災に関する取り組みを行う。</p> | |

| |
|-------------------------|
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
| |
| 次年度への改善点 |
| |

大阪市立古市小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100 （施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も <u>3 ポイント減少</u>させる。 （施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より <u>3 ポイント増加</u>させる。 （施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 平成 30 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より 0.5 m 向上させる。 （施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を前年度より向上させる。 （施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成） ○ 平成 30 年度の校内調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より 0.5 m 向上させる。（施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成） | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>3年生～6年生を対象に国語・算数・理科・社会の平成29年度の小学校学力経年テストの結果を分析し、学力の実態を全員が把握したうえで指導を実施する。具体的には、実態分析をもとに各学年の指導の重点を把握し、朝チャレや家庭学習やおさらい教室において、1学期に前年度の復習を進め、2学期以降は当該学年での学習内容の定着を図り、計画的に学習を進める。</p> <hr/> <p>指標 研修会などで、学期に1回ずつ分析結果や教材や指導内容、児童の実態などについて話し合う。</p> | |
| <p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>言葉を通して主体的に伝え合う子どもの育成をめざし、日常的に書く活動を行い、授業研究を通して文型の定着や伝え合うよさが実感できるよう、指導力の向上をはかる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>全員が研究授業を行い、本年度本校アンケート調査で、「自分の考えを書いて、人に伝えることができる」について肯定的な回答をする児童の割合を全学年で80%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】</p> <p>体力向上アクションプランのもと、体育の授業を実施し、運動が好きになる授業づくりに努める。運動カードの活用など、体育の授業をはじめとする学校生活の中（外遊び等）で、運動能力、体力の向上に取り組む。</p> <p>春と秋にスポーツテストを実施する。</p> <hr/> <p>指標 春と秋のスポーツテストを比較し、自分の記録が1項目以上向上した児童が全体の5割以上になるようにめざす。学校アンケートの「運動が好きですか」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】</p> <p>基本的な生活習慣の育成の取り組みを通して、手洗い・うがいの大切さを知り、自ら手洗い・うがいをする習慣をつけ、児童の健康保持増進をはかる。家庭との連携、啓発も含めながら結果の向上をはかる。</p> <hr/> <p>指標 健康チェック週間を月1回実施し、よりよい健康習慣が身につく児童をふやす。校内アンケートにおける「手洗い、うがいをし、健康に気を付けていますか。」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。</p> | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| | |
| 次年度への改善点 | |
| | |